

地元電力会社の協力を得て、 事故多発地に電柱プレートを取り付け

愛媛県大洲市 愛媛舗道株式会社
小林 哲之

実感から生まれた 月間安全管理目標

先月号でふれた大洲の安管事業所における「月間安全管理目標（以下、管理目標）」の標語募集について補足しておきたい。安全標語の募集は全国で広く行われているが、その活用範囲や目的の明確にしないまま応募を呼びかけるだけでは、一部の限られた人の興味をひくにとどまり、強い波及効果は期待できないように思う。

そこで考えたのが、毎月の担当事業所を選定して、そこで働く人たちが、事故防止、安全運転にかかわる自分たちの思いと行動目標を標語にしてもらい、それを目につきやすい掲示用の用紙に印刷して全事業所に配布、職場の管理目標とした。

実践しようということだった。

頼もしかったのは、各事業所が真剣に受け止め、今月の当番は自分たちだという当事者意識のもとにプライトを持って応募してこられたことである。担当を断ったり、辞退したりする事業所は1カ所もなく、標語が集まらない事業所も皆無だった。毎月の作品は、現場の人たちが自分自身の実感を言葉に凝縮したものが多かった。それを作った人々にとっても、職域や生活の場から交通事故の芽を摘んでいくには、こういうことが大切かということを考える機会になったと思う。年度末には1年間の成果について管轄の大洲警察署長、同交通課長といった方々と安全運転管理者協議会の役員によって公正な審査のもとに優秀作を選び表彰を行った。このように標語のかたちを

心に貼るお守り 安全運転6ヶ条

運転の基本は安全状態の確認にあることとはいうまでもない。前回ご報告した、安全確認を呼び掛ける「交通安全御守・たしかめくん」のステッカーについても少し補足しておかなければならない。本誌8月号で掲載していただいたステッカーの写真を見る限りでは「たしかめくん」が掲げている旗にしろされた「安全運転6ヶ条」の文言が読み取りにくい

である。その6項目は次のとおりである。

- ① いねむり運転していないか
- ② スピード運転していないか
- ③ わき見運転していないか
- ④ おしゃべり運転していないか
- ⑤ 考えごと運転していないか
- ⑥ 交通違反運転していないか

これらの確認事項はいずれも安全運転にとって大事な要素であって、これを守っていれば99・9%の安全を確保する「御守」になるといえるのではなからうか。神社仏閣に参詣して安全を祈願し護符をいただくのも結構であるが、上記のような安全運転の6ヶ条を明記した「確認の護符」が運転者の心のなかに貼られていることが望ましいと思うのである。

電柱にプレート 注意喚起の旗も

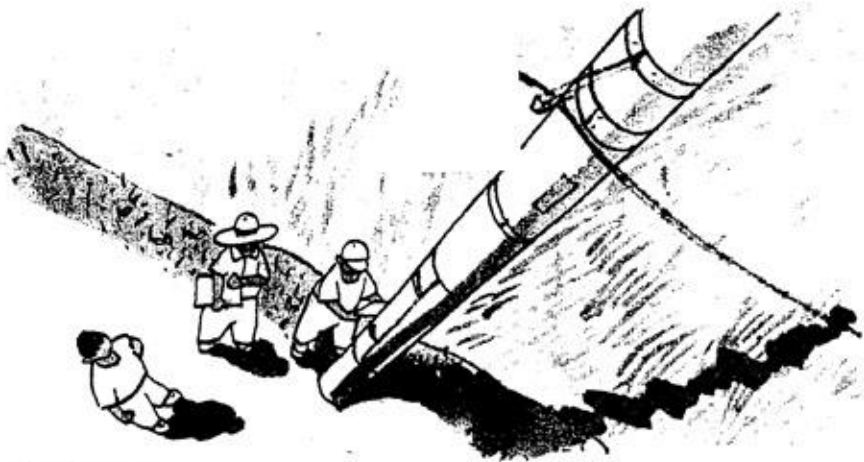
ステッカーのほかにも表裏を使えるカード形式の「たしかめくん」お守りを作ったが、その一方の面には、同じイラストレーションのカメが持つ旗に6ヶ条の代わりに「ベルトをしめて、ゆっくり走ってみませんか」（長寿 たしかめ）という言葉も入れてある。これは、セーフティライフ・スローライフのすすめのようなものかもしれない。

また、四国電力・愛媛支社のご理解ご

協力のもとに道路沿線の電柱を利用して、愛媛県安全運転管理者連絡協議会の名で「交通事故発生増加抑制対策プレート」を取り付けたこともご紹介しておきたい。運転者の皆さんに見通しの悪いカーブなど事故多発地点における意識的な安全運転を心掛けてもらうためである。運転者の視野に入りやすい電柱の部分に「たしかめくんプレート版」をデザインした「安全運転 注意/事故多発」というプレートを取り付けただけだ。各地区の協議会に厚さ1ミリのプラスチック板に印刷したプレートとステンレス製の止め金具付きバンドを送り、役員メンバーが取り付けた。その総数は県内の約600カ所に及び、四国電力さんに取り付け地点のご報告をすともにもその後の清掃、維持など責任を持って行った。

このプレート作戦と同時に「安全運転注意/」の旗の制作、掲示も推進した。「ここは危険だ」と運転者が思うことで覚醒した安全運転のリズムが生まれる。これらの活動は、事故抑制のうえで目に見えない効果を上げたと思っている。

(続く)



絵・市川興一



小林哲之（こばやし さとし）さんのプロフィール

1942年（昭和17年）愛媛県大洲市生まれ。愛媛舗道株式会社社長。大洲高校から麻布獣医科大学（現・麻布大学）に進み65年卒業と同時に父君が創業し経営する愛媛舗道株式会社入社、83年社長となり今日に至る。早くから交通安全の重要性に目を向け81年大洲安全運転管理者協議会会長に就任（在任25年）、89年愛媛県安全運転管理者連絡協議会副会長（同12年）、2001年より会長（同5年）をつとめ、愛媛県高速道路交通安全協会副会長（同5年）なども歴任した。事業所の運転管理を中心に地域社会における安全活動の推進力となって強いリーダーシップを発揮し、その功により2005年春の第45回交通安全国民運動中央大会においては全国優良安全運転管理者協議会の代表として表彰状を受けた。